



皆さん、ユトレヘトのドム塔へようこそ。ここはユトレヘトの文化や歴史への門です。

自己責任の下でドム塔へ登ってください。ドム塔のツアーは切符を買った場所から始まります。ドム塔はガイドさんと一緒にしか登れません。

登る前にドム塔の規則を読んでください。

- *手荷物は持っていかに、ロッカーに入れてください。カメラやビデオは持って行くのもいいですが、切符を忘れずに持って行ってください。
- *塔の中は禁煙です。そして塔の中で飲んだり、食べたりしてはいけません。
- *塔から物を投げないでください。
- *グループと一緒に行動し、単独行動をしないでください。ガイドさんの言うことをよく聞いてください。
- *ツアーが終わるまで、塔を出ないようにしてください。

ドム塔はオランダで一番高い教会の塔で、高さは112メートル32センチです。地上95メートルの高さから、ユトレヒトの街の景色とユトレヒト近辺の景色を一望することができます。塔を登りながらガイドさんが何度か立ち止まって、各々の場所で説明をします。ガイドさんの話はこの文の内容と同じです。ですから、このパンフレットを参照しながらガイドさんの説明を聞いてください。

塔の入り口は受付がある建物にあり、1929年に創設されました。

今、上っているこの階段は司教の階段であり、文化財です。59段上がった後で「ミカエルのチャペル」に到着します。このチャペルは地上11メートルの高さにあります。そして、このチャペルは1328年に創設され、当時はユトレヘトの司教の私用のチャペルでした。今ではこのチャペルは結婚式や講義などに使われています。1929年に床暖房が敷かれました。

よく見るとドーム（丸屋根）の天井に穴が開いています。その穴から道具や建築材料などを出し入れするのに使われていました。その様な穴が全ての階段にあります。そのステンドグラスは1920年時代に作られました。当時、家具は全て木で作られていたのです。

121段上ったら「エグモンドのチャペル」に到着します。このチャペルは地上25メートルの高さにあります。1901年まで塔の管理人は奥さんと子供と一緒にここに住んでいました。

彼は塔の貴重品を管理していて、時計の保存をしていたのです。

1931年に塔の修復が終わった後、管理人は必要なくなり、管理人はここを去りました。

1982年よりこのチャペルは博物館として使われています。

絵の説明

1254年にゴシック式のドム教会の建立が始まりました。1321年には既に色々な部分が出来ていて、1321年から1382年の間にドム塔を造られました。

その間、二、三回資金不足の為、建築が一旦、中止されました。1382年から1490年まで翼廊が造られました。1490年から1525年の間に大聖堂を造られました。資金不足の為、控え壁とか飛び梁が造られず、その為建物の耐久性は低かったです。

1674年8月1日に大型台風がユトレヘトを襲いました。台風で数百の建物が倒壊し、ドム大聖堂も倒壊しました。しかし、ドム塔はあまり被害を受けませんでした。大聖堂の残骸を、150年後にもそのまま放置し、撤去しなかったため、今でもドム教会とドム塔がドム広場によって分かれています。地上70メートルの高さから、ドム大聖堂が崩壊した様子を眺めることができます。

これから鐘の屋根裏へ行きます。部屋に入る時は頭上に注意してください。時計の鐘と鐘の縄は絶対に触らないでください。

221段上がった後ら鐘の屋根裏に到着します。ここは地上49メートルの高さにあります。鐘は全部で14あり、重さは全部で三万一千キロあります。このドム鐘はオランダで一番重いです。そして、ドイツの大都市の一つである、ケルンの次にヨーロッパで一番重いです。部屋の真ん中にある鐘の名前を「サルバトル」といいます。この鐘の重さは8227キロでドム塔で一番重い物です。最も古い七つ鐘は1505年に造られました。ほかの七つは1982年に造られました。新しい鐘は丸い鳴子で目立ちます。鐘は79%の銅と21%の錫の合金の青銅で造られました。鐘はよく一つずつ手で鳴らされています。14の鐘が一度に全部鳴るのは一年に二、三回だけです。全部を鳴らすのに約25人必要です。鐘を鳴らす為の紐の長さは下にある部屋まであります。この鐘がある屋根裏の下にある部屋は鳴屋根裏というのです。鐘が掛けてある板の様なもの（以下：ベルケージ）は、熱帯にある硬材で造られました。1505年に樫（かし）の木で造られたのと取り替えられました。塔が鐘の振動で壊れないように、ベルケージは、塔から取り外されています。

318段上がった後で地上70メートルの高さに到着します。この部分の形はランタンのような八角形ということから名前が“ランタン”というのです。風の影響を緩和するためにこの部分は故意に、閉まってしまうように造られました。そして、このように造られましたから鐘の音は街中でよく聞こえます。カリヨン（ヨーロッパで昔から教会などに設置された、打楽器の一つ）の鐘は、全部で50あり、重さは全部で26000キロあります。最古の33の鐘は1664年に造られました。ほかの17の鐘は、1972年から1974年の間に造られました。ベルケージは熱帯の硬材で造られました。1974年にこのベルケージは、1906年に造られた鋳鉄製（ちゅうてつせい）のベルケージに取り替えました。機械的なカリヨンは1664年に造られました。カリヨンが動きを成す為の要であるのは、このカリヨンのバーレル。このバーレルに24750の小さな穴が開いていて、穴の中に針がはいています。バーレルが回ると、奥にある針がバーレルに装着してある器具を上げます。その器具は、鉄のケーブルによって鐘を鳴らす金づちの様な物に付けられていて、その金づちが鐘をならすという仕組みになっています。一時間に四回、自動的に鐘がなります。一年間に四回、つまり三ヶ月を周期として鐘のメロディーは新しいメロディーに変わります。一週間に二、三回鐘楽家の演奏家は木製のキーボードで鐘を演奏します。そのキーは鉄のケーブルで鐘の鳴子に付いています。そのキーボードがある部屋は地上80メートルの高さにあります。目を凝らしてみると、ベルケージの表に掛かっている一番大きな鐘の上にその部屋が見えます。

間もなく地上95メートルの高さに到着します。これまで465段上ってきました。ここから尖塔は15メートル以上高いです。尖塔の上にある風向計の形は聖マールテンが乞食と一緒に外套（防寒や防雨のため洋服の上に着る衣類）を共有することを表現しています。聖マールテンはユトレヘトの街の守護聖人です。聖マールテンの外套の色（白と赤）は1818年からユトレヘトの旗に使われています。それでは、ドム塔の観光を終了します。ガイドさんの言うことをよく聞いて、足元に注意して下ってください

ユトレヒトへの訪問、誠にありがとうございました。またユトレヘトにお越しくください。